

# ICT 企業に内定した短大生が抱く不安と 新人研修への想いについての考察

高谷 将宏<sup>1</sup>, 吉田 幸太郎<sup>2</sup>, 佐藤 和美<sup>2</sup>

(受付: 2024年9月7日 受理: 2024年9月7日)

## 1 はじめに

2024年(令和6年)3月短大卒業者の就職率は97.4%であった(厚生労働省・文部科学省2024)<sup>[1]</sup>。一方、2024年5月時点、短大生に人気がある事務職の新規求人倍率は職業計1.85に対し0.62であった(厚生労働省2024)<sup>[2]</sup>。こうした背景からICT企業への就職を目指す短大生も少なくない。ただし、情報学を専門に学ぶことのできる短大は少ない。採用の困難化が深まる中、ICT企業を目指す短大生の存在は貴重である。ICT企業はこれまで情報学を専門としない学生の採用を行っている。この場合の学生とは四年制大学出身者を意味することが多い。つまり、短大生は修業年限が短い非情報系の学生に該当する。

中島(2013)は、「就職活動中の不安は短大生よりも四大生の方が強く、就職後は統計的に有意な差は無い<sup>[3]</sup>」ことを明らかにした。一方、ICT企業を目指すに当たり、学生が抱く不安についての研究は筆者らが調べた限り見いだせない。なお、中島(2013)は短大卒と四大卒の転職願望に共通する要因として職場不安を挙げている<sup>[3]</sup>。しかし、情報系と非情報系の違いを加味した場合、短大生の不安は四大生と異なる可能性がある。

多くのICT企業では新入社員研修を行っている。専門分野、修行年数が異なる中でICT企業に内定した短大生はどのような不安を直面する新入社員研修などに抱いているのであろうか。本研究の目的は、こうした不安を明らかにすることにある。不安を把握することにより、ICT企業にとって新入社員研修を含むより良い受け入れ体制の構築の一助になることを期するものである。

## 2 研究概要

### 2.1 研究対象

仙台市内のA短大の学生3名を対象とした。3名はICT企業に内定しており、研究調査の趣旨を説明した上で、協力してくれた学生(以下、「協力者」と称す)である。

### 2.2 研究方法

協力者に対し筆者らが個別にインタビューを行い、インタビュー内容をテキスト化した。その後、計量テキスト分析による分析を経て階層のカテゴリーを構築、カテゴリーごとに考察を行った。計量テキスト分析には、KHCoder3 Beta.07f(2023/3/12リリース)を用いた。

インタビュー調査の質問項目は予備調査を行い項目の検討を行った上で設定した。インタビューは、質問項目の客観性を保ちつつ、協力者の考えを可能な限り拾い上げるために半構造半自由的インタビューを採用した。なお、本研究はA短大倫理委員会の承認を得た上で行った(仙台青葉学院短期大学承認番号0525,2024年4月22日付)。

計量テキスト分析は分析者による恣意的・主観的な解釈を可能な限り回避できるという利点を有する。一方、文書セグメントというものが、それ以上小さい要素に分割してしまうと文字通り、意味のなさない最小限の単位となってしまう(佐藤2008)との指摘が存在する。そのため、最小の単位である単語が文中でどのように用いられているのかを確認し、意味解釈の齟齬が生じないことを確認している。更に、計量テキスト分析から共起ネットワークを描画(Fig.1)し、その内容に基づき筆者らが理論飽和を迎えたと共通の認識を確立した上で階層のカテゴリーの構築を行った。

<sup>1</sup> 事業構想大学院大学

<sup>2</sup> 仙台青葉学院短期大学

